

第 3 回

授業づくり講座 教材研究会

安芸市立安芸中学校

「2年 一次関数」 浦田 泰良 教諭

東部の中学校、今年度最後となる「教材研究会」を行いました。

8月21日(火)市立安芸中学校では、9月26日(水)の「授業研究会」兼「東部地区中学校数学授業改善研究協議会」に向けての「教材研究会」が開かれました。

二学期の授業づくりの参考にしようと、安芸第一小、大柘中、鏡野中、野市中、芸西中、清水ヶ丘中、安田中の各学校から14名の参加となりました。特に今回は、単元計画、教材研究の大切さを強く感じると共に、数学科の「育成すべき資質・能力」を意識したカリキュラムの開発がいかに重要であるかについて学ぶことができました。

模擬授業・研究協議



模擬授業は、全国学力・学習状況調査でも取り上げられた、ガソリン車とハイブリッド車の購入について、一次関数を使って解決する内容でした。

研究協議では、「生徒の立場で考えると、どのような導入の入り方が適切なのか?」、「最初に、表、式、グラフのどれに焦点を当てて問題解決を進めていけばよいのか?」等について協議しました。参加者からは「車選びが生徒にとって実感を伴う題材なのか?」、「授業の最初は、生徒が問いを持つような課題の出し方がよいのではないか?」、「グラフでの解決が自然ではないか?」等、参加者が自分事として捉えながら、協議しました。

齊藤一弥先生の指導より

①単元のゴールは明確か?

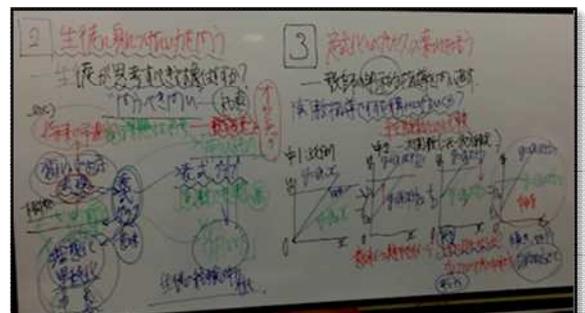
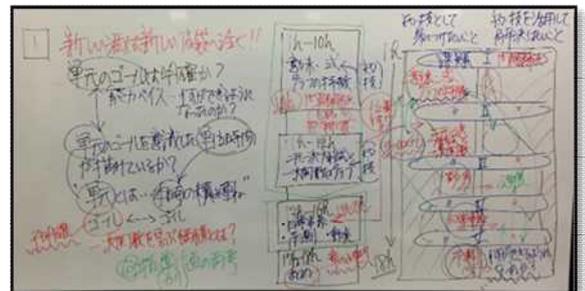
- ・付けたい力が見える単元計画を作成しなければならない。
- ・資質・能力ベースの単元ゴールを描き「生徒が何ができるようになったのか」を明確にする。
- ・一次関数を学習する価値や関数でどんな生徒を育てたいのかが大切である。
- ・問題解決のプロセスを通して、知識、技能を習得させる。

②生徒に身に付けさせたい力を問う

- ・将来の予想ができる一次関数の価値を変化や対応などを考察することで、身に付けさせなければならない。
(理想化、単純化し一次関数と見なすことが大切である。)
- ・「考察 → 一般化 → 振り返る」数学的活動を組織する。

③定式化のプロセスの素地を培う

- ・関数指導で何を丁寧に積み重ねればよいのかを明確にする。
- ・生徒は自分の経験値との比較の中でしか学びを重ねることはできない。



参加者より

- ・単元づくりの大切さを改めて学びました。単元で大切にしたいことを再考し、今後の実践に生かしたいです。
- ・教えることありきではなく、生徒の主体性を育む授業づくりが大切であると感じました。
- ・単元でどんな力を付けたいのか、その前にどんな価値があるのか、しっかりと教材研究をする必要性を感じました。(そこには、教師の「思い」が大切)
- ・内容ベースの授業ではなく、新学習指導要領に基づいた資質・能力ベースの授業を目指していきたいです。
- ・単元ゴールを明確にし、単元カリキュラムを考え、小学校から中学校へのグラフの系統性を確認していきたいです。

9月26日(水)市立安芸中学校 「授業研究会」兼「東部地区中学校数学授業改善研究協議会」